

平成 31 年度
(第 8 期)
事業計画書

平成 31 年 4 月 1 日から
平成 32 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 林レオロジー記念財団

公益財団法人 林レオロジー記念財団
平成 31 (2019)年度(第 8 期)事業計画書

本財団は、わが国の食料品製造機械産業における研究開発を支援するための助成事業、人材育成事業等を行い、日本の食品産業の育成に寄与すること、並びに各国、地域独自の食文化の発展・再興・普及の促進に寄与することを目的とした活動を行う。

【公益目的事業費】

1 奨学金給付事業

本事業は財団の目的を理解し、食品産業の学術研究において将来の発展が期待できる大学院生、大学生、専門学校生を対象に奨学金給付事業を行う。

平成 30 (2018)年度の応募者総数〔平成 31 (2019)年度給付予定〕は 292 名〔大学院生：215 名(内訳：2 年生 85 名，1 年生 130 名)，大学生：75 名(内訳：4 年生 35 名，3 年生 40 名)，専門学校生：2 名)〕となり、「奨学生選考規定」に基づき下記のとおり 92 名の奨学生を決定し、奨学金給付を実行する。

なお、昨年度からの継続奨学生 46 名の 2 年目給付奨学金の額は、25,440 千円となる。

No.	予算の内容	予算額 (千円)	平成 31 年度 給付分 (千円)
(1)	大学院 2 年生:月額5万円を1年間, 25 名に給付する。	15,000	15,000
(2)	大学院1年生:月額5万円を2年間, 42 名に給付する。	50,400	25,200
(3)	大学4年生:月額3万円を1年間, 11 名に給付する。	3,960	3,960
(4)	大学3年生:月額3万円を2年間, 12 名に給付する。	8,640	4,320
(5)	専門学校生:月額3万円を1年間, 2 名に支給する。	720	720
平成 31 (2019)年度採用奨学生の奨学金給付予算小計		78,720	49,200
(6)	大学院 2 年生:月額5万円を平成 30 (2018)年度からの継続奨学生 37 名に1年間給付する。	22,200	22,200
(7)	大学4年生:月額3万円を平成 30 (2018)年度からの継続奨学生 9 名に1年間給付する。	3,240	3,240
平成 30 (2018)年度採用奨学生 2 年目奨学金給付予算小計		25,440	25,440
奨学金給付予算合計		104,160	74,640
(8)	その他公益目的事業に必要な費用	13,210	13,210
公益目的事業費 合計		117,370	87,850

※平成 31 (2019)年度に新規に採用する奨学生は 92 名，平成 30 (2018)年度からの継続採用奨学生は 46 名となり，合計 138 名の奨学生に奨学金を給付する。

本事業の予算総額は、期末配当金の予想額〔平成 31(2019)年 6 月末受領予定〕及び中間配当金〔平成 31(2019)年 12 月末受領予定〕の予想額、並びに特定費用準備資金取崩額を勘案し事業計画を立案した。

2 平成 31 (2019)年度の特定期費用準備資金の取崩し額

奨学金給付事業に関する特定費用準備資金の取崩し額は、配当金の増額分積立から 6,500 千円を取崩し奨学金として給付する。

平成 31 (2019)年 3 月末日付で、「奨学金給付事業 奨学給付金積立資金給付金積立資金(2 年目給付)」として積立てた 25,440 千円を全額取崩し奨学金として給付する。

平成 31 (2019)年 3 月末日付で、「奨学生交流会準備費用」として積み立てた 5,000 千円を全額取崩し交流会費用として使用する。

取崩し額合計は、36,940 千円とする。

3 平成 31 (2019)年度の特定期費用準備資金の積立額

奨学金給付事業が継続的かつ、円滑に維持運用ができるように、平成 31 (2019)年度から平成 32(2020)年度までの 2 年間給付奨学生の平成 32(2020)年度の 2 年目給付分奨学金 29,520 千円を平成 32(2020)年 3 月末日付で、「奨学金給付事業 奨学給付金積立資金給付金積立資金(2 年目給付)」として積立てる。

安定的な奨学金給付事業を維持するために 6,100 千円を平成 32(2020)年 3 月末日(2019 年度)から平成 39(2027)年 3 月 31 日(2026 年度)までの積立期間 8 年として積立てる。

以上積立額合計は 35,620 千円とする。

4 奨学生との交流活動の計画

平成 31 (2019)年度奨学生 138 名を対象として交流会を実施することを計画した。交流会では、レオロジー記念館、研究室、工場等の見学及び懇親会を計画し、奨学生間の親睦並びに財団との交流を図り、奨学生育成の一助とする。